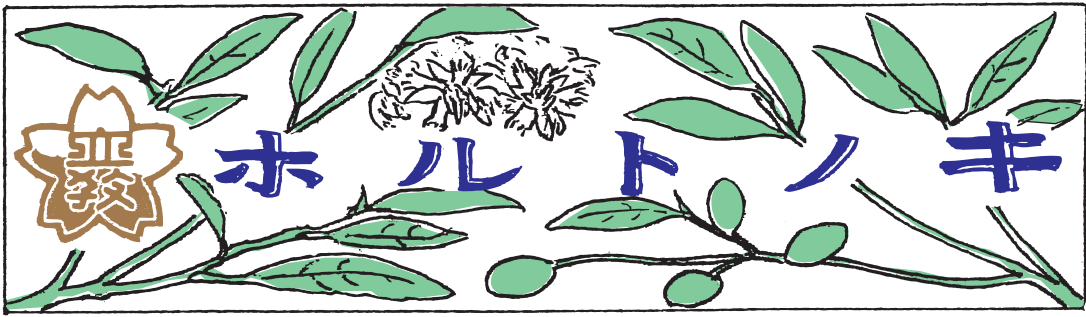




賜物を発見し、活かす

キャンプステイブンス

本年度は本校から中学二年生と三年生を合わせて生徒四名のみの参加となりました。参加人数の関係で立教新座中学校（中学三年生十七名）と初日から合同での海外研修となりました。

参加者が限られているからこそ、より一層コミュニケーションをするチャンスがあったのではないかと思います。英語学習だけではなく、価値観に強烈な影響を与えると言われるアメリカキャンプですが、今年度も参加者たちそれぞれが何らかの価値ある気づきを得たようでした。

次は参加者の一人の振り返りです。この行事の全体像が掴める内容になっています。

（引率 小林隆史）

初めてのアメリカ

僕はこの夏、人生初めて海外に行った。行先はアメリカで、キャンプステイブンスに参加した。僕自身、もともと海外に行くということに興味はあったものの、家族で行くとなると僕には妹がいるのでなかなか予定を合わせる事ができず何度か断念した。そんな時に英



語の授業でキャンプステイブンスの存在を知り、自分の英語が本場でどこまで通用するのか興味を持った僕は家に帰ってからすぐに親に相談した。僕のお父さんは中学生のころアメリカに二、三年ほど住んでいたことがあり、学校で学ぶ英語と現地でする英語は違うという経験があったので、その経験を僕にもさせてあげたいということだった。それからというもの、僕はキャンプステイブンスが待ち遠しく、心躍らせていた。

羽田から飛行機でロサンゼルス、一泊してサンディエゴを経由してキャンプステイブンスへ向かった。キャンプステイブンス二日目からアメリカの中学生、高校生も参加して、いよいよキャンプが始まった。初めての海外、しかも旅行ではなくキャンプ。英語を学びに行くわけではない、だから言葉の壁など感じることではないのでは、と当初は考えていた。文法なんて不要で、知っている単語を並べてあとは身振り手振りで伝わるだろうという甘い考えを持っていた。しかし、キャンプが始まると、その考えは実はそれほど甘くなく、ある程度のコミュニケーションは取れることが分かった。

語の授業でキャンプステイブンスの存在を知り、自分の英語が本場でどこまで通用するのか興味を持った僕は家に帰ってからすぐに親に相談した。僕のお父さんは中学生のころアメリカに二、三年ほど住んでいたことがあり、学校で学ぶ英語と現地でする英語は違うという経験があったので、その経験を僕にもさせてあげたいということだった。それからというもの、僕はキャンプステイブンスが待ち遠しく、心躍らせていた。

羽田から飛行機でロサンゼルス、一泊してサンディエゴを経由してキャンプステイブンスへ向かった。キャンプステイブンス二日目からアメリカの中学生、高校生も参加して、いよいよキャンプが始まった。初めての海外、しかも旅行ではなくキャンプ。英語を学びに行くわけではない、だから言葉の壁など感じることではないのでは、と当初は考えていた。文法なんて不要で、知っている単語を並べてあとは身振り手振りで伝わるだろうという甘い考えを持っていた。しかし、キャンプが始まると、その考えは実はそれほど甘くなく、ある程度のコミュニケーションは取れることが分かった。

ここでも僕が一番思い出に残ったアクティビティ、オーバーナイトを紹介したいと思う。オーバーナイトというのはいわゆる野宿だが、キャンプステイブンスでは山の斜面、岩山のそばなど山の中腹あたりに寝袋を敷いて寝る。寝袋にくるもがたく、空を見上げると星がきらめいていて幻想的な世界に入り込むことができる。僕は外で寝るなんてことが初めてだったし、ほんとにこんな山の硬い地面で寝ることができたのかという不安はあったが、キャンプステイブンス中は毎日何キロも歩くことや、物凄く体を動かすので、運動しているため疲れがたまっていてすぐに眠りにつくことができた。外で寝るなんてことも人生でこれくらい経験がなかったので、貴重な経験ができた。

キャンプステイブンスでの七日間の生活が終わると、ロサンゼルスへ戻った。たしかに文法が使えたら、もっと単語を知っていたら、さらにコミュニケーションの幅は広がっただろうが、アメリカ人とキャンプのアクティビティを楽しむんだり、考えを共有したりするときに不便は感じなかった。実際、エリックとアポロという一生の友達もこのキャンプでつくることができた。

ここでも僕が一番思い出に残ったアクティビティ、オーバーナイトを紹介したいと思う。オーバーナイトというのはいわゆる野宿だが、キャンプステイブンスでは山の斜面、岩山のそばなど山の中腹あたりに寝袋を敷いて寝る。寝袋にくるもがたく、空を見上げると星がきらめいていて幻想的な世界に入り込むことができる。僕は外で寝るなんてことが初めてだったし、ほんとにこんな山の硬い地面で寝ることができたのかという不安はあったが、キャンプステイブンス中は毎日何キロも歩くことや、物凄く体を動かすので、運動しているため疲れがたまっていてすぐに眠りにつくことができた。外で寝るなんてことも人生でこれくらい経験がなかったので、貴重な経験ができた。

キャンプステイブンスでの七日間の生活が終わると、ロサンゼルスへ戻った。たしかに文法が使えたら、もっと単語を知っていたら、さらにコミュニケーションの幅は広がっただろうが、アメリカ人とキャンプのアクティビティを楽しむんだり、考えを共有したりするときに不便は感じなかった。実際、エリックとアポロという一生の友達もこのキャンプでつくることができた。

ここでも僕が一番思い出に残ったアクティビティ、オーバーナイトを紹介したいと思う。オーバーナイトというのはいわゆる野宿だが、キャンプステイブンスでは山の斜面、岩山のそばなど山の中腹あたりに寝袋を敷いて寝る。寝袋にくるもがたく、空を見上げると星がきらめいていて幻想的な世界に入り込むことができる。僕は外で寝るなんてことが初めてだったし、ほんとにこんな山の硬い地面で寝ることができたのかという不安はあったが、キャンプステイブンス中は毎日何キロも歩くことや、物凄く体を動かすので、運動しているため疲れがたまっていてすぐに眠りにつくことができた。外で寝るなんてことも人生でこれくらい経験がなかったので、貴重な経験ができた。



キャンプステイブンスでの七日間の生活が終わると、ロサンゼルスへ戻った。たしかに文法が使えたら、もっと単語を知っていたら、さらにコミュニケーションの幅は広がっただろうが、アメリカ人とキャンプのアクティビティを楽しむんだり、考えを共有したりするときに不便は感じなかった。実際、エリックとアポロという一生の友達もこのキャンプでつくることができた。

ここでも僕が一番思い出に残ったアクティビティ、オーバーナイトを紹介したいと思う。オーバーナイトというのはいわゆる野宿だが、キャンプステイブンスでは山の斜面、岩山のそばなど山の中腹あたりに寝袋を敷いて寝る。寝袋にくるもがたく、空を見上げると星がきらめいていて幻想的な世界に入り込むことができる。僕は外で寝るなんてことが初めてだったし、ほんとにこんな山の硬い地面で寝ることができたのかという不安はあったが、キャンプステイブンス中は毎日何キロも歩くことや、物凄く体を動かすので、運動しているため疲れがたまっていてすぐに眠りにつくことができた。外で寝るなんてことも人生でこれくらい経験がなかったので、貴重な経験ができた。

キャンプステイブンスでの七日間の生活が終わると、ロサンゼルスへ戻った。たしかに文法が使えたら、もっと単語を知っていたら、さらにコミュニケーションの幅は広がっただろうが、アメリカ人とキャンプのアクティビティを楽しむんだり、考えを共有したりするときに不便は感じなかった。実際、エリックとアポロという一生の友達もこのキャンプでつくることができた。

ここでも僕が一番思い出に残ったアクティビティ、オーバーナイトを紹介したいと思う。オーバーナイトというのはいわゆる野宿だが、キャンプステイブンスでは山の斜面、岩山のそばなど山の中腹あたりに寝袋を敷いて寝る。寝袋にくるもがたく、空を見上げると星がきらめいていて幻想的な世界に入り込むことができる。僕は外で寝るなんてことが初めてだったし、ほんとにこんな山の硬い地面で寝ることができたのかという不安はあったが、キャンプステイブンス中は毎日何キロも歩くことや、物凄く体を動かすので、運動しているため疲れがたまっていてすぐに眠りにつくことができた。外で寝るなんてことも人生でこれくらい経験がなかったので、貴重な経験ができた。

キャンプステイブンスでの七日間の生活が終わると、ロサンゼルスへ戻った。たしかに文法が使えたら、もっと単語を知っていたら、さらにコミュニケーションの幅は広がっただろうが、アメリカ人とキャンプのアクティビティを楽しむんだり、考えを共有したりするときに不便は感じなかった。実際、エリックとアポロという一生の友達もこのキャンプでつくることができた。

ここでも僕が一番思い出に残ったアクティビティ、オーバーナイトを紹介したいと思う。オーバーナイトというのはいわゆる野宿だが、キャンプステイブンスでは山の斜面、岩山のそばなど山の中腹あたりに寝袋を敷いて寝る。寝袋にくるもがたく、空を見上げると星がきらめいていて幻想的な世界に入り込むことができる。僕は外で寝るなんてことが初めてだったし、ほんとにこんな山の硬い地面で寝ることができたのかという不安はあったが、キャンプステイブンス中は毎日何キロも歩くことや、物凄く体を動かすので、運動しているため疲れがたまっていてすぐに眠りにつくことができた。外で寝るなんてことも人生でこれくらい経験がなかったので、貴重な経験ができた。

キャンプステイブンスでの七日間の生活が終わると、ロサンゼルスへ戻った。たしかに文法が使えたら、もっと単語を知っていたら、さらにコミュニケーションの幅は広がっただろうが、アメリカ人とキャンプのアクティビティを楽しむんだり、考えを共有したりするときに不便は感じなかった。実際、エリックとアポロという一生の友達もこのキャンプでつくることができた。

ここでも僕が一番思い出に残ったアクティビティ、オーバーナイトを紹介したいと思う。オーバーナイトというのはいわゆる野宿だが、キャンプステイブンスでは山の斜面、岩山のそばなど山の中腹あたりに寝袋を敷いて寝る。寝袋にくるもがたく、空を見上げると星がきらめいていて幻想的な世界に入り込むことができる。僕は外で寝るなんてことが初めてだったし、ほんとにこんな山の硬い地面で寝ることができたのかという不安はあったが、キャンプステイブンス中は毎日何キロも歩くことや、物凄く体を動かすので、運動しているため疲れがたまっていてすぐに眠りにつくことができた。外で寝るなんてことも人生でこれくらい経験がなかったので、貴重な経験ができた。

キャンプステイブンスでの七日間の生活が終わると、ロサンゼルスへ戻った。たしかに文法が使えたら、もっと単語を知っていたら、さらにコミュニケーションの幅は広がっただろうが、アメリカ人とキャンプのアクティビティを楽しむんだり、考えを共有したりするときに不便は感じなかった。実際、エリックとアポロという一生の友達もこのキャンプでつくることができた。

ここでも僕が一番思い出に残ったアクティビティ、オーバーナイトを紹介したいと思う。オーバーナイトというのはいわゆる野宿だが、キャンプステイブンスでは山の斜面、岩山のそばなど山の中腹あたりに寝袋を敷いて寝る。寝袋にくるもがたく、空を見上げると星がきらめいていて幻想的な世界に入り込むことができる。僕は外で寝るなんてことが初めてだったし、ほんとにこんな山の硬い地面で寝ることができたのかという不安はあったが、キャンプステイブンス中は毎日何キロも歩くことや、物凄く体を動かすので、運動しているため疲れがたまっていてすぐに眠りにつくことができた。外で寝るなんてことも人生でこれくらい経験がなかったので、貴重な経験ができた。

キャンプステイブンスでの七日間の生活が終わると、ロサンゼルスへ戻った。たしかに文法が使えたら、もっと単語を知っていたら、さらにコミュニケーションの幅は広がっただろうが、アメリカ人とキャンプのアクティビティを楽しむんだり、考えを共有したりするときに不便は感じなかった。実際、エリックとアポロという一生の友達もこのキャンプでつくることができた。

短期留学を経験して生の英語に触れ、自分の英語力を高めたいと思って

オーストラリア短期留学プログラム

今年度から始まったオーストラリア短期留学プログラムは、中学二年生から高校二年生までの計二十五名が参加しました。受け入れ先のオールセイন্ツ校は、立教と同じ聖公会に属する学校で、共通点も多く、生徒たちは安心してできる環境の中で、語学研修やアクティビティなど多彩な体験を重ねることができました。参加生徒の感想を以下に掲載していますので、ぜひご覧ください。

（担当 志水 元）

オーストラリア短期留学を経験して生の英語に触れ、自分の英語力を高めたいと思って

オーストラリア短期留学プログラム

今年度から始まったオーストラリア短期留学プログラムは、中学二年生から高校二年生までの計二十五名が参加しました。受け入れ先のオールセイন্ツ校は、立教と同じ聖公会に属する学校で、共通点も多く、生徒たちは安心してできる環境の中で、語学研修やアクティビティなど多彩な体験を重ねることができました。参加生徒の感想を以下に掲載していますので、ぜひご覧ください。

（中二 一木 碧葉）

オーストラリア短期留学を経験して生の英語に触れ、自分の英語力を高めたいと思って

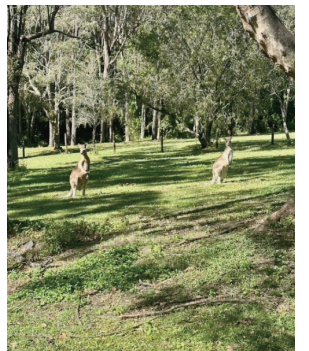
オーストラリア短期留学プログラム

今年度から始まったオーストラリア短期留学プログラムは、中学二年生から高校二年生までの計二十五名が参加しました。受け入れ先のオールセイন্ツ校は、立教と同じ聖公会に属する学校で、共通点も多く、生徒たちは安心してできる環境の中で、語学研修やアクティビティなど多彩な体験を重ねることができました。参加生徒の感想を以下に掲載していますので、ぜひご覧ください。

オーストラリア短期留学を経験して生の英語に触れ、自分の英語力を高めたいと思って

オーストラリア短期留学プログラム

今年度から始まったオーストラリア短期留学プログラムは、中学二年生から高校二年生までの計二十五名が参加しました。受け入れ先のオールセイন্ツ校は、立教と同じ聖公会に属する学校で、共通点も多く、生徒たちは安心してできる環境の中で、語学研修やアクティビティなど多彩な体験を重ねることができました。参加生徒の感想を以下に掲載していますので、ぜひご覧ください。



翌日から学校が始まり、平日は毎日。オールセイন্ツの先生から英語をは

いた僕は、短期留学の募集を知り、説明会に参加した。治安が良く、自然豊かなオーストラリアであること、現地の学校に通いながら英語を学べるという点に魅力を感じ、今回のプログラムに応募した。

出発日が近づくにつれ、楽しみという気持ちよりも緊張が強まっていた。自分の英語力で通じるだろうか、現地の学校やホストファミリーの方々はどんな人だろうか……さまざまな思いが頭をよぎった。

そして迎えた七月二十六日。家族に別れを告げ、成田空港からブリスベン空港へ。オーストラリアは二回目だったが、ブリスベンやゴールドコーストは初めてだった。灼熱の日本とは違ってかわり、現地は冬だった。寒いというより涼しく心地よい気候だった。

学校に到着し、ホストファミリーと初対面。とても感じの良い優しい方方で、緊張が少しほぐれた。僕は同じ学年の友達と高一の先輩と三人で同じホストファミリーにお世話になった。着いた日は日曜日だったので、初日はゆっくりホストファミリーと散歩に行ったり、スーパーマーケットに行ったりして、親睦を深めた。

翌日から学校が始まり、平日は毎日。オールセイন্ツの先生から英語をは

いた僕は、短期留学の募集を知り、説明会に参加した。治安が良く、自然豊かなオーストラリアであること、現地の学校に通いながら英語を学べるという点に魅力を感じ、今回のプログラムに応募した。

出発日が近づくにつれ、楽しみという気持ちよりも緊張が強まっていた。自分の英語力で通じるだろうか、現地の学校やホストファミリーの方々はどんな人だろうか……さまざまな思いが頭をよぎった。

そして迎えた七月二十六日。家族に別れを告げ、成田空港からブリスベン空港へ。オーストラリアは二回目だったが、ブリスベンやゴールドコーストは初めてだった。灼熱の日本とは違ってかわり、現地は冬だった。寒いというより涼しく心地よい気候だった。

学校に到着し、ホストファミリーと初対面。とても感じの良い優しい方方で、緊張が少しほぐれた。僕は同じ学年の友達と高一の先輩と三人で同じホストファミリーにお世話になった。着いた日は日曜日だったので、初日はゆっくりホストファミリーと散歩に行ったり、スーパーマーケットに行ったりして、親睦を深めた。

翌日から学校が始まり、平日は毎日。オールセイন্ツの先生から英語をは

いた僕は、短期留学の募集を知り、説明会に参加した。治安が良く、自然豊かなオーストラリアであること、現地の学校に通いながら英語を学べるという点に魅力を感じ、今回のプログラムに応募した。

出発日が近づくにつれ、楽しみという気持ちよりも緊張が強まっていた。自分の英語力で通じるだろうか、現地の学校やホストファミリーの方々はどんな人だろうか……さまざまな思いが頭をよぎった。

そして迎えた七月二十六日。家族に別れを告げ、成田空港からブリスベン空港へ。オーストラリアは二回目だったが、ブリスベンやゴールドコーストは初めてだった。灼熱の日本とは違ってかわり、現地は冬だった。寒いというより涼しく心地よい気候だった。

じめ、オーストラリアの歴史など、さまざまなことを学び、現地の授業にも参加させてもらった。一番興味深かった授業は、スラング。スラングとは、言いづら

長い長い英単語を短くした単語のこと。特にオーストラリアではよく使われるらしい。例えば、'kangaroo' は 'roo'、'a cup of tea' は 'cuppa' となる。普段英文法を正確に組み立てていくことを考えている僕にとっ

て、単語すら省略するスラングは衝撃的だった。授業を受けていて、オーストラリアと日本の学校で違うと思った点がいくつかあった。それは、専用の教室がなく、同じクラスでも日や授業によって教室が違

うこと。また、ゲームなど参加型の授業が多く、問題を解くとお菓子をもらえることもあった。生徒たちが楽しんで授業を受けている様子

が印象的だった。さらに授業だけでなく、いくつかのアクティビティも行った。まずはバーベキュー。ビーチへ向かう途中、国立公園にも立ち寄った。オーストラリアにしかない巨木があり、その巨木に長い歴史を感じた。次は動物保護園。コアラ、カンガルー、エミューなど、日本では見られないような動物がたくさんいて、驚いたことに、野生動物専用の病院も完備されていた。

そして休日には、ホスト

じめ、オーストラリアの歴史など、さまざまなことを学び、現地の授業にも参加させてもらった。一番興味深かった授業は、スラング。スラングとは、言いづら

長い長い英単語を短くした単語のこと。特にオーストラリアではよく使われるらしい。例えば、'kangaroo' は 'roo'、'a cup of tea' は 'cuppa' となる。普段英文法を正確に組み立てていくことを考えている僕にとっ

て、単語すら省略するスラングは衝撃的だった。授業を受けていて、オーストラリアと日本の学校で違うと思った点がいくつかあった。それは、専用の教室がなく、同じクラスでも日や授業によって教室が違

うこと。また、ゲームなど参加型の授業が多く、問題を解くとお菓子をもらえることもあった。生徒たちが楽しんで授業を受けている様子

が印象的だった。さらに授業だけでなく、いくつかのアクティビティも行った。まずはバーベキュー。ビーチへ向かう途中、国立公園にも立ち寄った。オーストラリアにしかない巨木があり、その巨木に長い歴史を感じた。次は動物保護園。コアラ、カンガルー、エミューなど、日本では見られないような動物がたくさんいて、驚いたことに、野生動物専用の病院も完備されていた。

そして休日には、ホスト

じめ、オーストラリアの歴史など、さまざまなことを学び、現地の授業にも参加させてもらった。一番興味深かった授業は、スラング。スラングとは、言いづら

長い長い英単語を短くした単語のこと。特にオーストラリアではよく使われるらしい。例えば、'kangaroo' は 'roo'、'a cup of tea' は 'cuppa' となる。普段英文法を正確に組み立てていくことを考えている僕にとっ



UK-Japan Young Scientists Workshop
世界で渡り合う力を求めて

私はこの夏、イギリスのケンブリッジ大学で学ぶ機会を得た。日本人とイギリス人がチームを組み、最先端の科学に触れることができた経験は、まさに貴重なものだった。私はジェットエンジンのタービン形状に

マザーがショッピングモール、遊園地、ラグビー観戦などに連れて行ってくれた。移動中、道のあちこちにカンガルーがいたり、ヘビがいたり……そんな光景にもだんだんと慣れ、自然を大切に作るオーストラリアの「自然と街の調和」を感じた。

(中三 橋本大雅)



ついて研究したが、航空宇宙工学においてタービンの形状は燃焼効率や推力、さらには環境負荷に直結する極めて重要な要素である。とりわけ現代では二酸化炭素排出削減やエネルギー効率の最大化が国際的課題となっており、その解決の鍵を握るのがタービン設計の最適化である。ケンブリッジ大学の研究所は、効率向上だけでなく、大手航空会社部品を提供するほどの世界最高水準の技術力を誇り、こうした研究は持続可能な社会の実現に欠かせない基盤であると実感した。

それ以上に強く印象に残ったのは、英語での議論と交流である。私にとって日本語でも難解な内容を英語で学ぶことは大きな挑戦であった。特に専門用語の微妙なニュアンスは容易に理解できなかつたが、イギリス人学生が積極的に質問を投げかける姿勢に触れ、「疑問を口にすること」こそが議論を深める原動力なのだと学んだ。教授も私の素朴な質問を丁寧に解説し、さらに補足を加えて議論を広げてくれた。そこで初めて、学問が対話によって深まり、人と人をつなげる力を持つことを実感した。

一方で、日本人の多くは

「間違えるぐらいなら発言しないほうがよい」と考える傾向があると思う。私自身も以前はその一人であった。しかし、間違いをきつかけに議論が発展していく場面を目の当たりにした時、無言でいることは学びの機会を自ら失っているのだと痛感した。発言の正確さよりも、積極的に交流する姿勢が知識を広げ、相互理解を生むのだと強く学んだ。

「間違えるぐらいなら発言しないほうがよい」と考えている。
(高三 永嶺 想)

今回、自分は海外でも通用する」という自信を与えた。英語力に自信があるわけではない。それでも臆せず発言し、外国人学生とも対等に渡り合えたことは、大きな手応えとなった。現在、世界はインターネットによって常につながっている。情報や人々の考えは瞬時に共有されるため、世界中の人々が身近な存在のように感じられる。しかし、実際に海外で学び、異なる文化や価値観に触れたことで、世界は自分が想像していた以上に広く、奥深いものであることを学んだ。だからこそ、私はその大きな舞台で世界の人々と対等に渡り合っていけるようになりたいと強く思った。

ケンブリッジ大学での体験は、最先端の研究に触れる機会であると同時に、自分の将来を見据える転機ともなった。外国人との交流を通じて海外に挑戦する覚悟が生まれ、専門分野の知識を深めつつ、国際的な場で積極的に学び続けたいという目標がより明確になった。このワークショップを通じて世界の広さを実感し、未知の環境に飛び込むことの重要性を学んだ。私は今後も海外に挑戦し、多様な人々と文化と関わりながら、世界で通用する力を身につけて学び続けたいと考えている。

二日目は、一、二歳をみるという初めての体験をすることができ、非常に満足している。今までのボランティアでは、三・四・五歳児を担当させてもらっていたので、言葉と言葉で話ができていたところが、一・二歳となると言葉が通じない。その部分で僕は最初少し戸惑ってしまった。しかし徐々に遊んでいくうちに、心と心がつながり、なんだか一緒に話しているかのような気持ちになった。ここで僕が学んだことは、決して言葉が通じなかったとしても、伝えようとする気持ちがあれば、きちんと通じるのだということである。その証拠に、最後の別



各自が保育園で着用したエプロン姿でパチリ！
ボランティアでの学びを表す言葉のカードを手にしています



園児の皆さんへのプレゼント
(高2生徒が家庭科で製作したクッション)

の純粋さに触れて忘れていた様々な感覚が蘇ってきた。やっぱり子供はいいなと思った。また機会があれば是非保育園ボランティアに参加したい。

今回、忙しい中受け入れてくださった保育園の方々に感謝申し上げます。三日間だけ保育園ボランティアに参加したがそれだけで保育士さんの大変さが身に染みる思いで分かった。そんな中受け入れていただき、ほんとうにありがとうございました。

(高二 中野 響)

清里ボランティア
今年度の清里ボランティアキャンプの特筆すべき点は、中高生の参加が例年に比べて非常に多く、池袋中高においては定員を大幅に超える申し込みがあったことです。昨年度が学院一五〇周年にあたり、とても満足度の高いキャンプになったことも影響しているかもしれません。

初日は渋滞に巻き込まれ、清泉寮に到着するまで五時間ほど時間がかかってしまいました。大幅な遅れに伴い、タイムスケジュールが大きくずれ込んでしまいました。臨機応変に対応することで事なきを得ました。大学生リーダーを中心に、うまく取り仕切ることでできてよかったです。

二日目は例年同様、班ごとに分かれて遊歩道の整備を行いました。私たちの班は古くなった橋を撤去し、新しく道を整備する作業を行いました。都内では三十五度を超える猛暑でしたが、清里は二十五度前後と涼しく、ほとんど汗をかく



吹奏楽部 高校は二十年ぶり二度 目の東日本大会出場

今年度は、顧問を務めていた西澤先生がご退職さ

こともなく作業を進めることができませんでした。夜には去年に引き続きキャンプファイヤーが予定されていましたが、あいにくの天候により室内でのレクリエーションとなりました。教員&スタッフチームも急遽参加し、児童・生徒・学生そして教員・大学スタッフが一緒に楽しく時間を過ごすことができました。

(引率 佐山貴亮)

三日目は振り返りを行い、班ごとにこの三日間の感想を分かち合いました。今年はオリジナルTシャツを大学生が作成し、最終日は全員でそれを着て記念撮影を行いました。コロナ禍を経てから回数を重ねて全体的にプログラムが洗練されてきており、参加者にとっても満足度の高いキャンプになったのではないかと思います。来年度もこのキャンプがより一層よいものになることを期待しています。

今年度の中学生は高校生レベルの難曲を、高校生は高度な演奏技術と表現力が求められるグレード五の曲に挑戦しました。六月に初めて合奏をした際は、中学も高校も一曲通しきることができず、演奏というレベルにさえ到達していませんでした。この時は、部員の皆もコンクールに間に合うのかと、不安でいっぱいだったと思います。しかしその不安を原動力に、中学生は個人の練習を重ね、積極的に高校生の先輩に教わりに行き、後輩にもしっかりと指導をしていました。同じように高校生も、同級生や先輩後輩と共に、どうすれば良いサウンドで演奏できるかを真剣に考え、表現方法の試行錯誤を重ねながら練習に取り組むことができた。難曲に挑戦することとは大変な事ですが、個人の技術を大きく向上できる貴重なチャンスでもあります。ぜひ、この経験を糧に今後の成長に繋げていってほしいです。

中学生、高校生共に、二ヶ月という短い時間の中で、与えられた時間を無駄にすることなく集

れ、四月の初めは引き継ぎや、新体制を整えるための準備などで指導者がいない状況でした。そのため、当初は部員と講師の先生のみで練習や合奏を行いました。その後、六月から西澤先生に再びご指導いただけることになり、例年より二ヶ月遅くコンクールの練習を開始しました。

今年度の中学生は高校生レベルの難曲を、高校生は高度な演奏技術と表現力が求められるグレード五の曲に挑戦しました。六月に初めて合奏をした際は、中学も高校も一曲通しきることができず、演奏というレベルにさえ到達していませんでした。この時は、部員の皆もコンクールに間に合うのかと、不安でいっぱいだったと思います。しかしその不安を原動力に、中学生は個人の練習を重ね、積極的に高校生の先輩に教わりに行き、後輩にもしっかりと指導をしていました。同じように高校生も、同級生や先輩後輩と共に、どうすれば良いサウンドで演奏できるかを真剣に考え、表現方法の試行錯誤を重ねながら練習に取り組むことができた。難曲に挑戦することとは大変な事ですが、個人の技術を大きく向上できる貴重なチャンスでもあります。ぜひ、この経験を糧に今後の成長に繋げていってほしいです。

中して練習することができました。その努力が本番まで続き、このような素晴らしい結果に結びつきました。中学生も高校生もこの経験を、今後の音楽との向き合い方、更には人生について考える際の一つの材料にしてもらえればと思います。

部長として、コンクールに対するプレッシャーや心配もありましたが、皆が真剣に取り組む姿を目にし、私自身も大きな勇気をもらいました。そして、この記念すべき快挙を部活の仲間と分かち合えたことを心から嬉しく思います。最後にありがとうございましたが、熱心に指導してくださった講師の方々、西澤先生、原先生、応援してくださったOBの先輩方、また保護者の方々とはこの場をお借りし感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

コンクールは終わりましたが、十一月にはR.I.F.やグローバルリング音楽祭、三月には定期演奏会など今後もイベントがたくさん待ち構えています。今後の演奏会も皆さんに楽しんで頂けるよう部員一同心を込めて演奏しますので、ぜひ吹奏楽部の演奏をお楽しみいただければ幸いです。

(高二 龍 泰瑛)

高校数理研究部 自由すぎる研究 EXPO2025金賞受賞

株式会社トモノカイ主催・文部科学省後援の「自由すぎる研究 EXPO2025」において、二〇二四年度の数理研究部の総合研究「眠営化計画(みんないかけいかく)」が金賞(協賛企業



賞・小学館DIME賞)を受賞しました。応募総数八三三二件のなかから六月の一次審査を経て、金賞を受賞しました。金賞受賞作品は全国で約百作品です。二〇二四年度の高校三年生を中心とするチームが、昨年度のIMC2024と日経ストックリーグのテーマがどちらも睡眠に関する研究でした。そこで、これらを融合して一つの研究として応募しました。

応募には、研究に関する解説動画と研究論文が必要です。メンバーで分担して両方を仕上げ、応募しました。六月中旬に一次審査通過報告があり、その後審査員とのオンラインでの質疑応答の後、八月初旬に最終審査結果発表となり、協賛企業である小学館DIME賞を受賞するに至りました。昨年度の総合研究がこのような外部の審査できちんと評価され、表彰されることは光栄なことであり、これからの研究活動の大きな励みとなります。

今年度も伝統文化を継承しながら、その人のレベルに応じた運動能力開発システムをVRを活用して制作しています。これからの研究活動を行う所存です。

研究参加者九名

あるべき姿を示した。また、もう一つの研究として量だけでなく、質を補助装置として、「寝台列車ですやすや」というVR作品を作成した。本作品ではVRゴーグルに流れる映像による視覚、アクチュエータを用いて実際に計測し再現した電車の揺れ、他にも電車の音で聴覚も刺激し、実際の寝台列車のような作品を再現した。これにより、少ない睡眠時間でも快適な睡眠をおこなうことが可能にした。

このように、私たちは去年一年を通して「睡眠」について調べた。その集大成として今回の「自由すぎる研究 EXPO」に応募し、金賞を受賞することが出来た。自分たちの一年をかけた研究を認めてもらえた喜びを感じた。また、学校生活の中で耳にする「今日、徹夜だわ/徹夜した」などの言葉を聞くが、このようなことをしなくても済むように個人の努力だけでなく、社会としての変化の必要性を感じることが出来た。これからはまず自分の睡眠時間から見直していきたい。

(高三 奥田煌人)

中高水泳部 夏の成果

▼中学水泳部
関東大会(千葉)
四〇〇m自由形 出場
一五〇〇m自由形第二位



高橋 真正 (二年)
四〇〇mリレー 第四位
高橋 真正 (二年)
佐藤優慈朗 (三年)
谷川 稜磨 (三年)
矢崎 薫 (三年)

▼高校水泳部
関東大会(埼玉)
一〇〇m背泳ぎ 出場
二〇〇m背泳ぎ 出場
阿部 煌生 (一年)

この夏、厳しい東京都予選会を突破し、中学は関東大会、高校は関東大会・インターハイへの出場を果たした。以下は、関東中学に出場した中学生の振り返りである。

(顧問 酒井一哉)



仲間に恵まれた三年間

あつという間に終わってしまった関東大会、過ぎ去ってしまったこの三年間、私は様々な人に支えられて乗り越えていくことができた。私はここまでに至る途中に得たことをここで振り返る。

私は受験の時に、大好きな水泳を心置きなくできる最適な場所はここだと思い、立教池袋中学を受験し入学した。そして、私は迷うことなく水泳部に入学した。中学一年生の時、私はクラブチームで練習をしていたため毎日練習に参加することができず、上手く馴染むことができなかった。しかし、先輩方はそんな自分を他の子たちと同等に接してくれた。私はそんな先輩方のおかげですぐに部活に馴染むことができた。また、先輩方は声をかけてくれるだけでなく自分の泳ぎの指導などもしてくれた。私はそんな先輩方に恩返しをするためにひたすらに練習をした。

私たちは東京都予選に向けて、フォームの確認・ターンの確認・リレーの引き継ぎの確認などをし、万全な状態で中学校最後の東京都予選を迎えた。私はたくさんの先輩・後輩に応援してもらった。結果今までの努力が実を結んだのか、奇跡的に関東大会に出場することができた。私はこの時に様々な人に支えてもらうことの幸せを覚えた。関東大会ではいつもとは違う場所が違う空気を感じながらレースを迎えた。緊張もあったが今まで練習してきた自分を信じ、またチームメイトを信じ、決勝進出を目指して泳ぐことができた。



中学バスケットボール部
東京都私立大会で準優勝

た。張り詰めた空気感や応援の声が今でも体に残っている。予選を通過し、迎えた決勝ではあと一歩及ばず、四位という結果で惜しくも表彰台に乗ることができなかった。

私はこの三年間で仲間の大切さや自分だけでは発揮できない力強さがあることを初めて実感した。また、支えてもらうということのありがたみを知った。中学校最後の大会で悔しい思いをした分、さらに強くなり、高校では今までお世話になった人に恩返しをできる選手になりたい。

(中三 佐藤優慈朗)

日本のプロバスケットボールリーグ（Bリーグ）は今年で十周年を迎え、さらなる盛り上がりを見せている。アメリカプロバスケット

界でも、八村塁選手は主力級の活躍、河村勇輝選手も体格的ハンデを乗り越えて躍動している。

日本各地域でバスケットが高まる中、東京都の私立中学校に通うプレーヤーが目標のひとつにする大会が私立大会である。

第四一回を迎えた「東京私立中学校バスケットボール大会」が八月二日〜二十五日にかけて行われた。予選リーグが三日間、そこを勝ち抜いた学校による決勝トーナメントが二日間。決勝まで進めば、五日間で十試合をこなすハードスケジュールである。公立校も含めた東京都大会では近年、私立校も上位に残り、関東大会や全国大会に進出し、毎年レベルの高い熱戦が繰り広げられる。

厳しい試合が予想されたが、本校は予選リーグ二位となり、決勝トーナメント進出を果たした。一六チームで争うトーナメントで一回戦、二回戦を勝ち抜き、続く準決勝では駒場東邦中学校を試合時間残り一分を切ったところで逆転のスリーポイントを決め、決勝進出。決勝では、予選リーグでも戦った成立学園中学校に敗れたものの、準優勝という結果となった。

短期間で多くの試合をこなす今大会を勝ち上がったのは、日頃から切磋琢磨して高めあった仲間の存在はもちろんのこと、日々サポートしてくださる保護者の皆様、応援してくれた中学三年生や高校生に感謝しなければならぬ。

首にかけた銀メダルに恥じぬよう、バスケットはもちろん、学校生活にも全力で取り組み、さらなる成長を期待したい。

今後も、応援よろしくお

中高鉄道研究部

願いたします。
(顧問 廣瀬・市橋)

本年度の夏も例年通り全国高等学校鉄道模型コンテストにモジュールレイアウトを出展した。本年度は題材地として賑わう温泉街と廃墟が同居する鬼怒川温泉を選択し、実際に部員が足を運んで下見を行った。

六月頃から製作を開始。本年度の課題として中学生低学年の出席率の低さ、警備員の方の働き方改革の影響による例年と比較して校内での夜間の作業時間の減少、組立式になったモジュールボードの影響による強度の低下があり、十分満足行く結果とはならなかった。

製作にあたっては鬼怒川温泉の情景を川、山、建築物の三種に分類しそれぞれを調査・製作した。川は独特な岩肌の表現に苦労しウッドチップを利用して地形を造成し石膏を用いて岩肌を表現する、という結果にたどり着くまで三回の再製作を経ることとなり、最終的な完成度には満足できたもののスケジュール管理に大きく課題を残す結果となった。

廃墟の製作も結果としてクオリティ自体は満足できたがトラブル等で製作時間が潤沢ではなかった。

結果としてベストクオリティ賞に留まる結果となったことは痛恨の極であり責任を痛感する点である。次年度以降の後輩には全体を俯瞰した製作を意識し、より良い作品の製作を期待したい。

(高一 荻野 達)



今年度出展した鬼怒川温泉をモチーフとしたモジュール。今夏、もう一か所我々が立教鉄研の作品が展示された場所がありま



す。それは、神奈川県立川崎図書館で開催された（九月一〇日終了）ものづくりギャラリー展示「鉄道貨物輸送」に展示された昨年度の模型コン出品作品、「神奈川臨海鉄道」。この図書館は、文学書などの配架はほとんどなく、「ものづくり技術」を支える図書館として、自然科学、産技術系の分野に特化した専門的図書館です。通常目にする機会がない鉄道会社や精密機

器製造会社の社史がずらりと並んでおり、顧問も本校の作品を観に足を運んだついでに、列車保安装置・信号システムの詳細やお気に入りの工業製品の製造工程など、他所では得られない情報に食いつくように閲覧して来ました。来館者の方の本校作品に対する評判も、上々とのこと。専門的な立場から、つぶさな観察や緻密なつくり込みを評価する声も少なくないとのこと。昨年のJ.R貨物賞、神奈川臨海鉄道賞の受賞と併せ、部員一同あらためてしっかりと観て丹念に創る喜びを噛みしめました。コンテストはもちろんのこと、一般の方にも開かれた場所として展示していただける機会をいただき、感謝しています。

(顧問 安原 章)

十 今月の聖句

「星を見る立教人」

悟りある者たちは大空の光のように輝き／多くの人々を義に導いた者たちは／星のようにとこしえに光り輝く。

―ダニエル書／十二章 三節

人間が他の生き物と異なる特徴の一つは、星を見ることがです。

星を仰ぐことは、まだ地上で明らかにされていない原理や法則を直観によって探り、整理しようとする人間の内なる力と呼び覚まします。また星を仰ぐことは、私たちが生きる世界の矛盾や不条理を直視させ、それを忍耐と創造によって乗り越えるために、内なる良心を堅く守ってくれます。

聖書に登場する人物たち、そして人類の文明の成熟や発展に貢献した多くの人々が星を見つめてきたことは、その事実を示しています。

やがて空気の澄んだ秋がやって来ます。秋は、大地の収穫という豊かさを与えると同時に、夜空の星がいっそう鮮やかに輝く季節でもあります。立教人、そして立教池袋中学校・高等学校の生徒の皆さん、ぜひ星を仰いで思い出してください。私たちの存在は、ただ地上に縛られて生きる者ではなく、星を仰ぎ見る者、直観と良心を持つ者であるということ。

(チャブレン 李 相寅)

